

# PC 活用における「学び合い」を支援する学生グループの試み

岩崎公弥子・片岡真子・千野友里恵・藤島佑美・牧杏佑香・松下摩美・宮松采加・若原夏実

Email: iwazaki@kinjo-u.ac.jp

金城学院大学国際情報学部国際情報学科

◎Key Words 学修支援, 教材開発

## 1. はじめに

金城学院大学 国際情報学部では、2012 年度からノートパソコンを導入した授業を実施している。e-Learning システムによる事前事後学修、グループワークやプレゼンテーションでの利用をはじめ、多くの学びの場でノートパソコンを活用し、すでに高い教育効果を得ている。しかし、その一方で、ノートパソコンの入門者であったり、上級生であっても十分に活用できていない学生がいることが課題となっている。

そこで、国際情報学部では、ノートパソコンの活用を支援する学生主導型グループ (Genius Supporters : 以下、GS) を組織し、学生の利活用支援を行なっている。具体的には、週に一度のワークショップ (GStudy!) の開催、ノートパソコンの入門冊子 (「HowtoMacBook」) や動画教材の制作等である。本研究では、GS がどのような活動を行なっているか報告するとともに、学生の学び合いがもたらす教育の可能性について論じる。

本論文は、次の 5 章で構成される。第 2 章で本学部のパソコンの利用調査から GS の活動目的を述べる、第 3 章では GS の具体的な活動について述べ、第 4 章で学び合いがもたらす効果について論じる。そして、第 5 章で今後の課題についてまとめる。

## 2. GS の活動目的

### 2.1 国際情報学部でのノートパソコンの活用

近年の高度情報化社会を背景に、メディアを読み解く力、多様な形態でコミュニケーションを図り、情報を発信する力、いわゆる、メディアリテラシーを身につけることが重視されてきている。そこで、国際情報学部では、2012 年度の開設以来、ノートパソコンを 1 人 1 台持つことを義務付け、数多くの専門科目のなかで活用している。

たとえば、国際情報学部には、協調型リーダーシップを養うための WLI (Women's Leadership Initiative) という科目群がある。WLI は、与えられた課題をグループで取り組み、プレゼンテーションの作成・発表を行うアクティブラーニング型の授業である。そこで、学生は、スライド作成はもちろんのこと、e-Learning システム・manaba (朝日ネット) や Google ドライブを活用した協働作業を行っている。

学生が持参するノートパソコンは、どの機種でも良いとしているが、学部が推奨する MacBook<sup>1</sup> (Apple) を、9 割強の学生が、入学時に生協で購入し、活用している。本機種を推奨する主な理由は、本体の薄さと軽さ、

バッテリーが長時間持つという点であるが、それに加え、クリエイティブな活動にも向いていることから、動画や音楽といったデジタルコンテンツ制作の授業においても非常に適した機種であると言える<sup>2</sup>。

国際情報学部は、世界を学び、世界に伝えることを主軸においた学部である。1 人 1 台ノートパソコンをあらゆる学びの場で活用することは、全ての学生が、高い情報活用能力を身につけるためにも必要不可欠なことである。

### 2.2 本学部のパソコン利用調査

新入生のメディアリテラシー能力と関心を調査するため、国際情報学部入学生に Web でアンケートを行なった。実施したのは、2017 年 4 月であり、回答者数は 169 である。

「普段パソコンを使いますか」という設問に対して、5 段階評価を行なったところ、「とても使う」「使う」と回答した学生は、23.5%であった。OS について尋ねたところ、Windows が 79.5%であるのに対し、MacOS は 15.5%であった。このことから、大半の学生が入学してから初めて Mac を利用することがわかる。「普段パソコンで何をしますか」という設問には、動画視聴が 59.4%、SNS が 17.4%、ネットサーフが 37.0%となっていた。

さらに、「自分のパソコン操作のスキルに自信があるか」という設問に対しては、46.5%が「自信がない」と回答している (図 1)。具体的に、アプリケーションのスキルについて 5 段階評価で回答してもらったところ、「あまり使いこなせない」「全く使いこなせない」と回答したものが、Office の Word で 30.1%、Excel で 43.4%、PowerPoint で 38.0%となっている。しかし、その一方で「パソコンのスキルは社会で必要だ」と回答しているものは、99.4%となっている (図 2)。

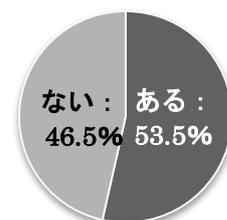


図 1 : 設問「パソコン操作に自信があるか」



図2：設問「パソコンのスキルは社会で必要か」

以上の結果から、学生はパソコン操作のスキルが社会で必要だと思いながらも、パソコンの扱いに自信がなく不安があることが明らかになった。さらに、新入生の9割近い学生が初めてMacを利用することがわかった。このことから、できる限り早い段階でのパソコン利用のサポートが必要であると考えられる。

### 2.3 GSの活動

前述の調査は、2017年度の調査結果だが、今までも同様の調査を実施しており、状況はほぼ同じである。すなわち、大半の学生がMacの初心者であり、パソコン操作に自信のない学生が非常に多い。

このような状況を背景に、2012年秋にGSが組織された。従って、GSの活動目標は、「国際情報学部の全ての学生がパソコンスキルを身につける」であり、GSは、そのための学修支援を行う組織と言える。

2017年6月現在、メンバーの数は、4年生5人、2年生7人、1年生1人、教員2名の計15名である。学生主導型の組織であり、メンバーに教員が含まれるものの、通常は、学生のみでMac講習会の準備・実施(GStudy!)や教材の開発(「HowToMacBook」)を行なっている。教員は、学会発表や外部イベント、新入生オリエンテーションの際に、事前指導や当日のサポートを行う程度である。

GSの詳しい活動内容は次の章で述べる。

## 3. GSの活動内容

### 3.1 概略

GSの主な活動は講習会と教材開発であり、まとめると表1ようになる。

「講習会」には、パソコンのアプリケーションや操作の説明を行うGStudy!や生協、Appleと協力して新入生のサポートを行う新入生オリエンテーション・セットアップ講習会等がある。「教材開発」は、Mac入門者に向けた冊子「HowtoMacBook」の制作。「企画・提案」、「イベント」は、生協との共同開発によるパソコン関連グッズの制作や学園祭におけるワークショップ等である。

本章では、GSの主な活動である、GStudy!と新入生オリエンテーションと「HowtoMacBook」について述べる。

### 3.2 GStudy!

GSの中心的活動となっているのがGStudy!である(図3)。



図3：GStudy!の様子

前期では、大学生活で必要とされるパソコンスキルとして、メール、レポートの書き方、Microsoft Officeを用いた資料作成の方法、大学のe-Learningシステムの利用方法(K-PORT, Kドライブ, Kmail, manaba)やMacの基本情報等、主に1年生やMac初心者に向けたテーマを実施している。

表1 GSの主な活動

項目	タイトル	内容	備考
講習会	GStudy! (前期)	入門者向け。大学生活に必要なパソコン知識や基礎スキルの講習。	昼休み (40分間)
	GStudy! (後期)	上級者向け。アプリケーション・資格の知識、クリエイティブ系活用の講習。	昼休み (40分間)
	新入生 オリエンテーション セットアップ 講習会	生協、Appleと一緒にパソコンの導入をサポート。 Office365やウイルスバスターのインストール講習。	新入生オリエンテーション (3時間30分)
教材開発	「HowtoMacBook」	入門者向け。GSオリジナルテキスト教材。 テキストを補完する動画教材も開発。	カラー印刷の冊子
企画・提案	グッズ制作	GSオリジナルのグッズを開発。(ノートパソコンケース)	生協と共同開発
イベント	iMovie ワークショップ	学園祭でのイベント。	金城学院学園祭
	College Night	Apple StoreのCollege NightでGSの活動や大学生のパソコンの使い方について発表。	2016年に実施

後期は、よりクリエイティブな活動のサポートを中心に、iMovie (映像編集) や GarageBand (音楽制作) の使い方、情報系資格の紹介等、上級者向けの内容となっている。開催日時は週に1回で昼休みの30分間、ご飯を食べながらという形で行っている。

国際情報学部の1年生を対象に学部の学びとGStudy!に関するアンケートを実施した結果(回答数169)、「入学して何がしたいか」、という設問に対し、映像制作や資格取得の回答が多く見られた。また、「GStudy!でどんな内容を取り上げて欲しいか」という設問にはレポートの書き方や映像編集の回答が見られた。毎年、同様のアンケートを新入生に対して行っており、この回答をふまえて、学生の興味を引くテーマを中心にGStudy!のテーマを設定している。

### 3.3 新入生向け「セットアップ講習会」

国際情報学部では、2012年度から入学生全員(約200名)に対して、生協と共同で、セットアップ講習会を開催している。翌年の2013年度からはGSが準備段階から企画に加わり、司会進行から講習会の一部を担当している。セットアップ講習会のながれは、概ね下記に記すものである<sup>3)</sup>。

<第一部> (30分間)

- ・大学生活におけるノートパソコンの活用方法 (担当:GS)

<第二部> (3時間程度)

- ・MacBook セットアップ講習 (担当:Apple)
- ・Office365 ProPlus インストール講習 (担当:GS)

GS がメインで担当するのは、第一部と第二部のOffice365 ProPlus のインストール講習である。第一部では、新入生の約9割が購入する推薦機種・MacBook の良さや、様々なアプリケーションを学生生活でどのように活用していくかを紹介している(図4)。

単にスライドで紹介するだけではなく、よりイメージしやすくするため、大学でどのような活用をしているか短い動画を制作し、見てもらっている。教員ではなく、先輩である学生が担当することで、新入生がこれからMacを使う事への不安を解消し、学生生活(学び、課外活動、趣味等)でどのように活用できるか学生目線で紹介することができる。新入生から、「これから自分が学校生活で使うMacをどのように使っていくのか考えるきっかけになった」との感想が聞かれた。



図4 : GS による MacBook 活用方法の紹介

第二部のAppleによるMacBookセットアップ講習は、GSがサポートを行い、Office365 ProPlus インストール講習では、GSが実演形式でインストール方法を解説している(図5)。

新入生からは、セットアップ講習について「Mac初心者でも分かりやすい説明で長時間でも苦ではない」、また、インストール講習では、「Office、ウイルスバスター等のダウンロードをGSの方々に丁寧に教えていただけたので、楽に行うことができました」という感想を得た。



図5 : GS によるインストール講習の様子

### 3.4 「HowtoMacBook」

「HowtoMacBook」は、Macの操作方法やインターネットの接続方法を掲載する新入生向けの入門冊子である(図6)。ページ数は36ページ程度であり、毎年、GSが、内容の見直しを行い、バージョンアップを重ねている。

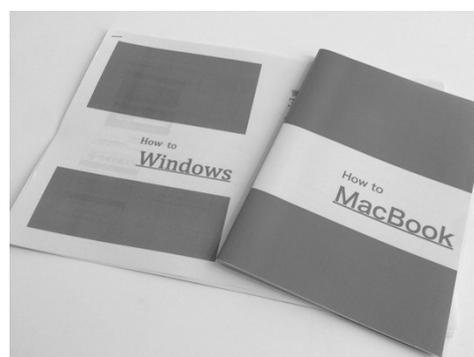


図6 : 「HowtoMacBook」

具体的な内容は、以下のとおりである(目次より一部抜粋)。

- ・Macの魅力
- ・トラックパッド
- ・キーボード
- ・システム環境設定
- ・Wi-Fiのつなぎ方
- ・ウィジェット
- ・USBメモリ
- ・アプリ
- ・manaba、Kドライブの使い方
- ・MacをiOSと連携して使おう

- ・ネチケット
- ・トラブル
- ・GS とは

一般的な入門書は、パソコンの起動方法から始まりワープロ（Word）の使い方やファイルの保存の仕方等を紹介するものが多いが、「HowtoMacBook」は、GS が学生サポートをしていくなかで質問の多かったものや便利な使い方を紹介したものが中心となっている。

たとえば、「システム環境設定」の章では、Dock の設定方法やデスクトップやスクリーンセーバーの設定の仕方、「キーボード」の章では、コマンドキーの使い方、「Mac を iOS と連携して使おう」の章では、iPhone と連携した便利な使い方（iCloud や iWork 等）等を紹介している。

また、新入生から「文字だけでは使い方がよくわからない」、「難しそう」との意見も聞かれたことから、2016 年度に動画教材を制作し、YouTube にアップロードした。2017 年度版「HowtoMacBook」には、動画教材へのリンク先を記した QR コードを載せ、動画で操作方法をわかりやすく解説している。

さらに、2017 年度からは、Windows 版の冊子も作成した。

学生からは、「Mac を使い始めた頃はショートカットキーのページを活用したりしていた」、「初心者だとわからない単語もあるので、動画の解説はとてもわかりやすい」という感想を得ることができた。

## 4. 学び合いがもたらす効果

### 4.1 学生主導型の学修支援体制

欧米諸国では、学修支援や留学生支援等において、ピア・サポーターが活発に活動している。日本においても、2000 年に文部科学省が示した「大学における学生生活の充実方策について」以降、学生が主体的に支援活動を行う重要性が指摘されている。

学生が学生に教えるということは、「教える学生」にとっては、学びを深めることができるとともに、教え方の工夫や順序だてて説明する工夫を通して、コミュニケーション力や課題解決力、論理的思考等を身につけることができる。また、新入生オリエンテーションのような学部において重要なイベントを学生に任せたり、教材開発やワークショップを任せることによって、責任感や自信を身につけることができる。一方、「教えられる学生」にとっては、気軽に質問できる環境があることから、学びを促進させることができる。こうして、「教える学生」と「教えられる学生」その双方が、学び合う体制を整えることによって、新しい「学びのコミュニティ」を形成することができる。

また、教員が「教える学生」に対して、スキルアップ講習会を開催することで、教える学生の質を高めることができる。さらに、通常の活動は学生自治に任せると、時折、教員を交えた意見交換を行うことで、学生視線での教育改革論点を見つけることもできる。

「学び」は、教師から学生への一方向なものではない。教師から学生、学生から学生、学生から教師と、多方向からの学び合いがおこることによって、「教員中

心の大学」から「学生中心の大学」へと転換させることができるのである。

## 4.2 GS での学び

2012 年度に GS が発足したことから、2015 年度に第 1 期生が卒業している。そこで、GS の卒業生に GS での学びについて尋ねたところ、以下の回答を得ることができた。

- ・ GS の活動を通じて、チーム間での発信力や協調性が身につきました。そして、その力が社会に出てからとても重要なことに気づきました。
- ・ 「教えること」は、自分の知識と経験をどれだけ上手に相手にアウトプットできるかということがわかりました。
- ・ 「やりたいこと」は「やれる」という経験を通じて、主体的に行動したり、自分の行動に責任を持つことができるようになりました。

上記のように、「教える学生」にとっても、GS の活動から学んだことは多かったことがわかる。今回は、卒業生に対して自由記述のアンケートのみを行なったが、今後は、「学び合い」から修得した力について、量的にも測定していきたい。

## 5. まとめと今後の課題

本研究は、学生主導型の「学びのコミュニティ」である GS の活動を紹介するとともに、「教える側」がどのような学びをそこで行なってきたかを報告した。

GS のようなピア・サポート・グループやプログラムを整備している大学は、立命館大学をはじめ、非常に多い。しかし、そこから得た成果を論じた研究は少ないのが現状である。今後、「学びのコミュニティ」が「教える側」「教えられる側」、すなわち、学生、教師、そして、大学にもたらす効果について分析するとともに、その体制作りについての研究を深めていきたい。

### 参考文献

- (1) 沖裕貴：立命館大学のピア・サポート・プログラム，立命館高等教育研究，(16), 1-17 (2016) .

### 謝辞

GS の活動は、多くの方々の支援、ご指導によって行われています。国際情報学部の先生方、金城学院大学生協、Apple Japan の皆様に感謝いたします。

<sup>1</sup> 2012 年度～2016 年度までは、MacBookAir (Apple) が推奨機種であった。

<sup>2</sup> 本学部の iPhone の利用率は極めて高く、1 年生 (回答数：169 名) のうち、Android が 12.5% に対し、iPhone は 88.7% である (複数回答可)。この点も MacOS を選択する理由のひとつとなっている。

<sup>3</sup> 国際情報学部では、MacBook を指定ではなく推奨している。そのため、Windows を持参する学生も 1 割程度いる。Windows を授業で使う学生のために、同時時間帯に教員と GS による Windows 講習会を別室で実施している。